

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2392200081		
法人名	株式会社サンケイ		
事業所名	グループホームチアフル笑明かり・咲明かり(笑明かり)		
所在地	愛知県一宮市浅井町尾関字西五輪26番地		
自己評価作成日	平成21年10月1日	評価結果市町村受理日	平成21年11月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.aichi-fukushi.or.jp/kaigokouhyou/index.html
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』
所在地	愛知県名古屋市中村区松原町一丁目24番地 S101号室
訪問調査日	平成21年10月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

共同生活と個々の生活を大切にすることをモットーに、一人ひとりに関わる時間を作りケアをしている。小さなことでも個々に目標を掲げ、いかに今ある機能を活かし、達成感のある暮らしが出来るかを考えケアにあたっている。特にホーム内でのレクリエーションに力を注ぐことで、ご利用者が落ち着き、笑顔が増えてきている。月1回の遠足や週1回のモーニング、ドライブや外食等、出来るだけ多く外出の機会を設けている。下肢筋力低下防止のため、散歩や体操を心がけている。外部のボランティアにお願いをし、習字や手芸、和太鼓や民謡、消防音楽隊の演奏等地域との交流も大切にしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設3年目を迎える当ホームは、2ユニットで、小規模多機能型施設を併設しており、玄関を入ると広々とした共用空間が広がっている。共用の場では広くゆったりと寛げる工夫が見られ、ボランティアによる和太鼓の演奏などや施設内合同の行事を楽しんでいる。理念に「生きるってすてきと思える家」を掲げ、職員はホームを利用者の家であってほしい、職員を家族と思ってほしいという気持ちでケアに取り組んでいる。法人内施設合同の夏祭りや運動会には、地域の住民が多く参加し、地域との関わりは深まっており、地域密着型サービスとしての役割を実践している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・「生きるってすてきと思える家に」の理念を旨とする理念を共有し、月に1度のミーティングにて唱和し再確認を行なっている。・毎日のケアの中で、実践していることもあるが、細かい所や個々を取り上げるとできていない事がある。	毎月のミーティング資料の冒頭には理念を必ず載せ、職員は確認をしている。職員はホームが「自分の家」であってほしいという気持ちを大切に日々ケアに取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・夏祭り、運動会に地元の住民の方を招待したり、民謡や和太鼓などのボランティアを受け入れ、地域との関わりを持っている。散歩時には挨拶を交わしている。買い物も近隣スーパーを利用している。	法人合同で地域住民と共に町内会の行事である祭りに参加している。また、ホームの行事にも地域住民の多くの参加が得られている。日頃の散歩時には気軽に挨拶を交わし、菜園の花を分けて頂く場面も見られる。	ホームの地域での位置づけは浸透してきているため、今後は町内の行事などに利用者が出向くことで交流が深まるよう、働きがけを、引き続き、期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・まだ、2年目の事業所ということもあり、具体的な取り組みは行なっていないと理解している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・運営推進会議には、主に管理者とリーダーが出席している。そこでの意見等がサービス向上に繋がるよう取り組んでいる。	会議には地域関係者や行政関係者などの出席が得られている。議題で取り上げられた内容を職員間で共有し、日々のサービスに活かす取り組みがなされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	・主に、管理者が市町村と連絡を取り、連絡や相談を取り合っている。 ・職員は関わっていない。	管理者は市の行政担当者と密に連絡を取り、情報の交換をおこなっている。運営推進会議に行政担当者の出席もあり、また市主催の講習会などにも出席している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・身体拘束についての理解はできていると思う。 ・室内は、自由に行き来できるように開放しているが、玄関の鍵は、常に施錠してしまっている。	身体拘束について職員間で話し合いをし、理解を深めるよう努めている。玄関の施錠についても現実優先の安全と鍵をかけない方針の実践の意義について引き続き今後の検討課題としている。	安全面はとても重要だと考えるが、職員と共に取り組んでいる施錠の開放について時間を決め、少しずつ延長するなど今後出来ることを期待する。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・高齢者虐待に関する研修など学んだ事があり、現在、事業所内での虐待はない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・個々に学んでいるスタッフもいる。 ・学ぶことは必要だと思うが、現在、学ぶ機会がない。現在1名の方が成年後見制度を利用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・管理者がしっかり行なっていると理解している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・訪問時、運営推進会議時等、または、必要に応じて面談することで、表出する機会を設けている。	家族の面会時には職員は積極的に話しかけ、意見などを吸い上げるよう努めている。直接職員に話しにくい場合は、管理者が話を聞き、必要な事柄をユニットでミーティングをしながら改善している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・意見を聞いてもらえる機会は多分にあり、内容によっては、ミーティングにて意見を求めたりと追求している。 ・意見が反映されているかは、わからない。	月1回開かれるミーティングの議題は職員が決め、日頃のケアに役立つよう意見や提案を出し合っている。管理者は職員の意見などを聞く機会を多く設けるよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・ユニットごとにケアを各々で考えて働けるような環境にある。 ・実際の条件整備等はわからないため、どう変動があるのか、不明。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・一人ひとりのスキルアップにつながるよう、グループ分けされた勉強会の開催や、外部研修に参加できる環境がある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・同事業所内での交流の中で、意見交流等行なっている。 ・まだ、事業所外での交流の場は設けられていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・新しい環境になじめるように、コミュニケーションを取りながら、不安や要望等を聞き、安心した生活が送れるようにケアにつなげている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・管理者、または、リーダーが代表して家族の話を読み、その中でスタッフは、注意点や要望等、報告を受け、ケアにあたっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・初期の面談、または、本人の行動、思い等からくみ取りケアにつなげている。また、必要に応じて他サービス紹介も行なう。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・生活する場であることを忘れず、家族の一員として、できること(家事等)は共に行ない、共生を心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・本人と家族の面会、外出の機会があり、可能な範囲で協力をあおんでいる。 ・面会時等、家族とも雑談することで、親しみを持てる関係作りに心がけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・馴染みの人とのつながりは面会等で保てるも、場所への支援は難しい。 ・一部は、家族との外出等で実現できている方もいる。	手紙、はがきの返信やホームの行事案内を馴染みの人に送付するなど、関係継続の支援に努めている。利用者が昔訪れたスーパーや馴染みの場所などに外出することもある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・ユニット内で利用者様同士の会話が弾むよう、レクリエーションを行ったり、話題を提供している。助け合う姿等が見られている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・管理者が必要に応じてフォローアップしていると、理解している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・何事に対しても、決め付けるのではなく、本人の意思決定を傾聴するよう心がけている。 ・困難な場合も、本人本位に考えるよう努めている。	常に利用者の話を傾聴し、表情やしぐさからも気持を読み取るよう努めている。会話が困難な利用者には、非言語的コミュニケーションを利用し、身振り・手振りなど様子を見守りながら、把握するように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・ご本人との会話、ご家族からの情報、前サービス利用事業所からの情報等から、可能な範囲での把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・自分の目や、他スタッフの観察等を照らし合わせ、いろいろな方向からの把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・ご家族には面会時等に意見を伺い、月1回の会議でスタッフ間で話し合い、ケア目標を立てている。	家族からの要望と一人ひとりの様子や出来事を申し送りノートに記録しながら、職員の意見を反映した介護計画を作成している。3か月に1回、見直しを行ない、職員は介護計画にもとづいたケアに取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・日々の様子、気付いたことは記録として残しているも、具体的に書くことや、介護計画に活かすことができていない。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・個々に合わせたニーズに沿って、そのときに応じた柔軟な対応を行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・スーパーや喫茶店、病院等、なじみある資源の活用に努めている。 ・もっと多用にある資源の理解に努める必要がある。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・ご本人、ご家族の希望、状態等で必要な医院に受診している。 ・基本は、事業所指定のかかりつけ医に受診している。	基本的には本人の希望するかかりつけ医への受診に柔軟に対応できる体制である。ホーム協力医の月1回の往診の他、家族による他の医療機関への受診が行なわれている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・体調の変化、気になること等を報告し、助言・指示を受け、支援を行なっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・管理者が行なわれていると理解している。 ・入院時は、介護サマリーを作成して、情報交換を行なっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・現在、ターミナルケア対象者がいないため、今後実施するのか否かは不明。	基本的には看取りは行なわない方針である。入居時には、本人家族と話し合い「重度化や終末期に向けた指針」についての理解を得ている。重度化した場合はその都度家族と話し合い事業所で出来ることとその利用者に添ったケアを提供するように努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・急変時のマニュアルは作成されている。 ・入社まもないスタッフが多く、学ぶ機会や実践力に乏しい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・緊急時の連絡網等の準備はされている。 ・実際の方法等は、訓練を行なっていく予定である。	緊急時連絡網が作成されており、避難訓練マニュアルを職員は確認し、3ヶ月に1回の避難訓練を行なっている。水の災害時備蓄も整っている。	日頃から地域住民との交流を深め、避難訓練などの参加を得て、災害時に協力体制が強化できるよう期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・日ごろひとり一人の人格を尊重した関わりを心がけている。 ・多忙な時間や、自分の心に余裕がない時に、適切な対応や判断ができないときもある。	利用者が一人になる時間を大切にするための環境(プライバシーが確保される場所が居室以外にもある)も整え、個室に入る時にはノックと声かけをおこなうなどの徹底を心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・可能な限り、本人の希望を尊重するよう心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・心がけてはいるも、実際は、淡々と一日が流れ、こちらの流れに乗せてしまうことがある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・その日の着る服等は、基本自分で選んで着用し、鏡の前で身なりを整えている。できない部分を、スタッフにて介助している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・利用者の力を活かして、できることを一緒に分担して作業を行なっている。また、一人ひとりの嗜好等の把握にも努めている。	献立、調理、配膳、後片付けなどに利用者が積極的に関わり、役割をもって参加している。職員と利用者は共に席につき、話をしながら職員の見守りの中で一緒に食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・個々の摂取量の把握に努め、一人ひとりの状態に応じ、水分や食事を摂るよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・起床時と夕食後のみ行なっている。できない部分や磨き残しの部分は介助にて行なっている。 ・拒否する利用者様への口腔ケアが課題である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・少しでも失敗が減るよう、定期的なトイレ誘導を行なっている。また、排泄パターンを把握して更なる失敗の減少に努めたい。	一人ひとりの排泄パターンを把握し個別に対応している。尿意や便意がない利用者に関しては失禁を無くし自立して行けるように時間で誘ったケアが実践されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・現在は、内服での管理が主であるも、食事や運動等での自然排便を促せるよう支援していきたい。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	・決まった曜日で入浴しており、それが習慣になっているため、特に変更等はしていない。しかし、入浴を楽しめる環境を検討する必要はある。	基本的に入浴は週に3回午後支援している。入浴の順番や時間帯の希望があれば柔軟に対応している。入浴拒否の方には家族の面会時に誘導したり、清拭などで対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・一人ひとりの体調に考慮しながら、活動量を調整し、休息したりしている。また、眠れないときは、本人の話等を聞いて、眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・すべてにおいて理解はできていないも、誤薬等ないよう、細心の注意を払い、服薬介助を行なっている。また、変化・効果等の観察も忘れず行なっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・一人ひとりに合った役割を日々の状況の中で作り、また、好きなものを食べに外出支援や散歩へ出かけたり気分転換を行なえるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・天候のいい日は、散歩に出かけたり、モーニング、ランチ、月に1度の遠足等、外出の機会が作られている。	日々の生活の中で利用者の希望に応じながら買物、お墓参り、遠足など積極的に外出の支援を行なっている。歩行困難な利用者にも外出を楽しんでもらえるよう配慮している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・現在は、すべての利用者様に対し、こちらでの管理をしている。基本的に個人がお金を持つことはないも、所持可能な方には、小銭程度を持っていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・現在、手紙のやり取り等はないも、行事案内等を一人ひとりに書いていただいて、コメントを添える等の支援を行なっている。また、希望あれば、電話をかける等の対応を行なっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・フロアや各居室に空調設備があり、一人ひとりに合わせて調整、換気を行なっている。 ・フロアは、ワンフロアであるが、くつろぐ部分と、食事の部分に分けることで混乱を防いでいる。	居間兼食堂は日当たりが良く、広々とした空間が保たれている。一角には畳敷きの和室が設けられ冬にはコタツで団欒している。居間や廊下には利用者の手作りの作品や習字がところ狭しと飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・共有空間では、お互いがゆずり合いの輪ができるよう、テレビを中心にソファ等を配置し、自由に行き来できるくつろぎ空間となっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・居室に置いてある家具は、一人ひとり違い、本人の使い慣れたものが活かされた部屋となっている。	利用者それぞれの好みのタンスや馴染みの物を持ってきて頂くようにしている。位牌を置かれる利用者もあり、自分の家として生活できるよう居心地の良い環境づくりに努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・個々の身体機能に合わせて、ベッド柵等の設置や、必要に応じて、シルバーカーの使用、食べやすいスプーン等を使うことで、個々に合わせた対応を行なっている。		

(別紙4(2))

事業所名 グループホームチアフル
笑明かり・咲明かり

目標達成計画

作成日: 平成 年 月 日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	40	毎日が同じ食事環境で、一人ひとりの好みを反映しているものの、楽しい食事環境ではなく、マンネリ化した環境となっている。	楽しく食事ができる。	①現在の食事環境について検討する。 ②環境を変える。(外で食べる等) ③選ぶ楽しみを持つ。 (パイキング等を定期的に行なう) ④使用する物品の検討。(皿、小鉢)	3ヶ月
2	45	入浴時間が流れ作業のようになって要るため、一人一人の時間が短時間となってしまっている。	一人一人がゆったりと入浴できる環境作り。	①待ち時間を作らない(脱衣所での) ②無音は避ける。(ラジオ・曲等をかける) ③一人ずつゆっくり入浴する。 (体調に配慮した入浴時間を設定) ④入浴の順番を毎回決める。	3ヶ月
3	27	現在の記録は、簡潔な記入が多く、具体的な内容が薄い。 気付き・発見を記録に残して行こう。	ケア記録の充実。 <今後のケアに役立つ記録を残す>	①現在の記録をスタッフ全員で見直す。 ②記録についての勉強会を行なう。 ③新しい書式の作成。 ④新しい書式の使用。 ⑤再検討を行なう。	3ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月